

Q 1 大学院博士後期課程へ進学した動機やきっかけは？

元々、進学に興味はありましたが、直接のきっかけとなったのは修士課程での研究成果です。私の研究は分野自体がかなり新しいもので先行研究もほとんど無く、測定装置の開発、新しい物質の探索など実験環境を構築するところから手探りで進めてきました。当然、成果に結びつくまでに他学生よりも多くの時間と労力を費やしましたが、最終的には美しいデータが得られ論文としてまとめることができました。当時の感動と興奮を文面でお伝えするのは難しいのですが、更なる研究への意欲を駆り立てるのには十分でした。成果が出たとはいえ、研究を進める中で新たに生まれた課題もあります。一から始めてようやく実を結び始めた研究ですから、最後まで自分の手でやり切りたい気持ちが強く、3年を費やしてでも挑戦したいと思えました。ですので正直なところ、博士課程で学ぶためではなく単に研究を続けたくて進学しました。我ながら単純な動機だとは思いますが、飾り気のない純粋な動機だからこそ、博士課程での艱難辛苦の研究生活を支え続けてくれたのだと思っています。

Q 2 博士前期（修士）課程と博士後期課程での研究における違いは？

最大の違いは、やはり研究に対する裁量の大きさだと思います。研究のプロセス自体は修士課程で身に着けたものと差異はありません。指導教官との報告・ディスカッションなどのやり取りはあれど、最終的な研究方針・実験内容の選定は自由に行えるため、自分の研究だという実感が今まで以上にあります。同時に、周囲からも修士以上に1人の研究者として見られていると感じます。例えばJSPSの特別研究員（いわゆる学振）や、私も参加しているJSTのSPRINGプログラムなど、研究費が支給される制度への申請機会が増えます。また、他大学や研究機関の共同利用（研究）制度にも応募できるようになります。私も半年に一回は、ISSPで外来研究員として研究をしています。学会などの発表でも、ころなしに修士の頃とは空気が変わったように思います。プレッシャーを感じつつも、周囲から認めて頂いていることをモチベーションに変えて研究に取り組んでいます。

Q 3 大学院で研究活動をするにあたって大事なことは？

研究に対する姿勢（意識・行動）も大切ですが、私は一番大切なのは研究仲間だと思っています。学士、修士、博士と進むにつれて同じ年代の人は周りから減っていきます。また、いくら自分の手で研究を進めるといっても、個人ができることには限界があり、専門性の強い研究ともなれば尚のことそれは顕著です。そうした環境において、自分の研究内容に興味をもち楽しみに議論してくれる存在は、（精神的にも）大変ありが

たいものだと思います。他の研究者やその人たちの研究内容に対して敬意を払うとともに、学会や研究会などに積極的に参加して交流の機会をもち、たくさんの人と良い関係を築いていくことは本当に大切です。月並みかもしれませんが、実際に他の学生や先生方と話してみると、皆さん口を揃えて私と同じ感想をおっしゃられます。

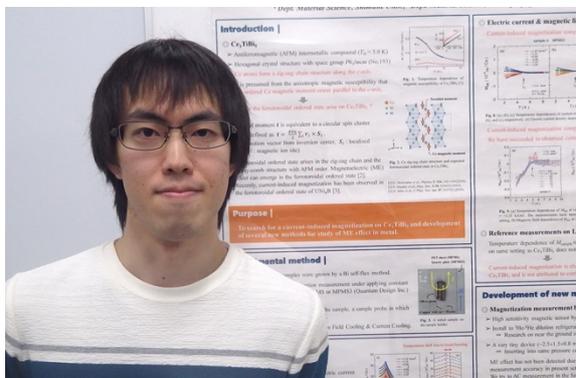
Q 4 研究以外の時間で息抜きやリラックスしたりする手段は？

何よりも十分な睡眠をとるのが一番の休息手段だと思います。根を詰めて睡眠時間を削りすぎた結果、1ヶ月ほど体調を崩してしまい、かえって研究効率が落ちて辛酸を嘗めた経験があるため、忙しくても睡眠時間は極力確保するようにしています。そのほか、博士課程は修士以上にまとまった時間を確保することが難しくなります。とくに私のような実験系の研究室では、曜日や昼夜に依らず、マシンタイムなど実験関連の都合を元に自分のスケジュールが決まってしまうので、日常のちょっとした空き時間、例えば研究室での休憩時間や食事などを修士課程以上に大切にできるようになりました。リラックスできるアイテム（好きなお茶や菓子など）を用意する、雑談できる相手が増えるような関係性・雰囲気づくりを心掛けるなど、スキマ時間の質を高める意識を普段から持つておくといいかもかもしれません。

Q 5 将来どのような仕事に就きたいと考えていますか？

私は博士課程修了後、分析評価系の民間企業に就職する予定です。就職活動を通して、博士としての専門性の高さや他の技術者・研究者を牽引する働きを期待されていると常々感じていました。今までは分野や扱うテーマが大きく異なるかもしれませんが、周囲の人は常に博士として私たちを見ていると思いますので、期待に応えられるだけのスキルや洞察力・判断力を発揮できる人材として活躍できればと思います。これまでは社会には直接還元されない基礎物理の研究を続けてきましたが、これからは一社会人として、大学院で培った能力を生かし社会に貢献していきたいと考えています。

令和4年6月30日



創成理工学専攻理工学コース 博士後期課程3年
篠崎真碩 (SHINOZAKI Masahiro)